

大分県支援結果について

1 支援経過

(1) 防災訓練シナリオに係る支援

実施日：平成27年9月16日（水）

参加者：大分県消防保安室、危険物保安技術協会

支援内容：実施日、訓練参加機関、訓練形式、災害想定について確認及び調整を実施。

(2) 訓練実施計画に係る支援

実施日：平成27年10月22日（木）

参加者：大分県消防保安室、アドバイザー、危険物保安技術協会

支援内容：防災訓練シナリオ及び訓練実施計画について確認及び調整を実施。また、タンク火災の想定、大津波警報発表時の自衛消防組織の対応、大容量泡放射システムの要請手順等について、アドバイザーによる助言を実施。

(3) 防災訓練

実施日：平成27年11月7日（土）

参加者：防災訓練参加機関（11機関）、アドバイザー、危険物保安技術協会

支援内容：防災訓練検証及び評価

2 防災訓練概要

(1) 実施日時

平成27年11月7日（土） 8：59～12：30

(2) 訓練場所

J X日鉱日石エネルギー株式会社大分製油所

大分県大分市大字一の州1番地1

(3) 参加機関

大分海上保安部、大分県、大分県警察本部、大分市、大分市消防局、大分市東消防署、熊本県緊急消防援助隊、別府市消防本部、J X日鉱日石エネルギー(株)大分製油所、大分地区石油コンビナート等特別防災区域協議会、大分県中北部沿岸海域災害対策協議会（11機関）

(4) 訓練形式

シナリオ型図上訓練を実働訓練である緊急消防援助隊の九州ブロック合同訓練と並行して実施。

(5) 災害想定

ア 11月7日（土）9時00分、日向灘沖を震源とするマグニチュード9の地震が発生し、大分市は震度6弱の強い揺れが発生する。

イ J X日鉱日石エネルギー(株)大分製油所において、地震によるスロッシングによ

り、2基の浮き屋根式タンクから原油が溢流し、何らかの原因により着火、2基の浮き屋根部において火災が発生。また、別の浮き屋根式タンク内にて2名が負傷し、3名が取り残される。

ウ 地震による津波の引き波により流された船舶がバースに衝突したことにより、配管を折損し、重油が海上に漏えいする。

(6) 訓練実施要領

ア 実働訓練である緊急消防援助隊の九州ブロック合同訓練と並行し、大分県災害対策本部の運営訓練をシナリオ型の図上訓練により実施する。災害対策本部の一部である石油コンビナート班が防災本部として機能する。

イ 訓練は、全本部員の配置が完了している状態（コンビナート班は班長含め5名）において発災とし訓練を開始する。

ウ 災害シナリオに従ってコントローラー（大分市消防局、別府市消防本部、佐伯市消防本部、大分県消防学校）により口頭等により本部員へ状況を付与する。本部員は、付与された状況を検討し電話等により関係機関と情報共有等を実施する。

(7) 訓練シナリオ

全体に係る訓練シナリオは、大分県消防保安室消防班が作成し、実動を伴う陸上訓練については、大分市消防局、海上訓練については、大分県中北部沿岸海域災害対策協議会と海上保安庁が作成した。また、コンビナートに係る関係機関の動きについては、標準災害シナリオを参考に消防保安室が作成した。（別紙1及び別紙2参照）

3 アドバイザーによる防災訓練に対する評価

本訓練のアドバイザーによる評価として、情報共有、情報伝達の具体的な実施方法に検討が必要であること、到達した個々情報に対して検討するだけでなく災害の進展予測を行い、事前準備の依頼や指示するなど後方支援としての役割を実施することが望ましいとの課題が認められた。一方、事業所に対して積極的に情報収集を行い、記録が適切にされており、また、災害状況の画像伝送を実施するなど情報収集に工夫が見られた。さらに、大容量泡放射システムの運用に県として積極的に関与しており、調整役として機能を発揮していることが確かめられた。

今回の大分県の訓練としては、図上訓練を通して対応手順を確認することを目的としており、事前に本部員にシナリオは周知されているが、シナリオに定められた対応は確実に実施されており、訓練目的は達成されているものと考えられる。また、大分県石油コンビナート等防災計画に定められている、防災本部の機能を災害シナリオに基づき実際に運用させることで、現在の体制についての課題を確認することができ、今後得られた課題を検討していくことで防災本部の機能強化に繋がるものと考えられる。

以下、アドバイザーにより挙げられた、防災本部（コンビナート班）に関する改善点及び推奨点を示す。

(1) 改善点

ア 防災本部の運営に関する事項

- ・ 地震発生時、職員がすでに災害対策本部内に配置されていたが、各本部員の職場から参集する訓練も望ましい。その際、本部立ち上げに必要な資機材も搬入する想定で行い、これらを部分訓練として実施することも有効である。
- ・ 災害対策本部内の各部署において、図面を持ち個々に情報を書き込んでいたが、1つの同じ図面を活用することによって情報共有を行うことが望ましい。
- ・ 災害対応の情報を共有するためホワイトボードを使用していたが、受報時間についても記録することが望ましい。また、他の班のホワイトボードの情報を確認し情報共有することが望ましい。
- ・ 訓練初期に班内での情報伝達の流れが定まっていなかったことから、収集した情報の班内での伝達方法を決めておくことが望ましい。さらに、他の班との情報共有の流れもルール化されておらず、本部会議時の口頭報告により情報共有していたことから、防災本部全体でルール化することが望ましい。
- ・ 一定規模以上の災害発生等の緊急報告方法が定まっていないことから、緊急の程度を含め報告方法を定めることが望ましい。

イ 関係機関との情報共有関係事項

- ・ 各事業所への災害確認の連絡を固定電話のみで行っていたが、防災無線を使用する訓練も実施することが望ましい。
- ・ 複数の機関に対しての1度の電話連絡で済ませていたが、実態に合わせそれぞれの機関に実施することが望ましい。また、消防庁等、関係機関からの問い合わせも訓練に入れることが望ましい。
- ・ 危険物配管の破損については異常現象であることから、消防庁への報告が必要であった。なお、異常現象の報告については、実災害では、逆に消防庁からの問い合わせが予測されることから、経過報告や進展予測についても報告対象として考えることが望ましい。

ウ 災害の進展予測に関する事項

- ・ 単発的に情報を基に検討をされているが、到達した情報に対して検討するだけでなく、災害全体、進捗状況を勘案して総合的に検討し、災害の進展予測を行い、本部員全員が共有していくことが望ましい。
- ・ 本想定はリング火災で終わっているが、余震等も含めてタンク火災等の災害の進展予測を行い、市や県を超えた泡薬剤の調達や防災資機材の調達を予測し、発災事業所への到達時間も調整しながら、事前準備の依頼や指示（後方支援としての役割）をすることが望ましく、また、総務省消防庁と災害について異常現象の

報告だけでなく、災害の進展予測も含めた情報のやり取りを行うことが望ましい。

エ 大容量泡放射システムの運用に関する事項

- ・ J Xのタンク全面火災は鎮火したという連絡があり、班長指示で広域共同防災へ大容量システムの帰隊連絡をしていたが、大容量泡放射システムの要否判断は、現場指揮本部であるJ Xと公設消防が調整をして要否の判断をする必要があった。

(2) 推奨点

ア 訓練シナリオの作成に関する事項

- ・ 公設消防はコンビナート災害対応ができない想定であったことから、県コンビナート班が分コン会（石災法22条の協議会）を介し各特定事業所の資機材や人員を活用しており、非常に有効に機能していた。石災法3条や24条で同一コンビ区域の特定事業所は互いに災害拡大防止に協力する旨明文化されているが、その調整を行政で行う良い事例であった。

イ 防災本部の運営に関する事項

- ・ シナリオに定められた訓練内容は、確実に行われていた。
- ・ 訓練を地震速報鳴動から開始し、地震速報鳴動時に身の安全を保護という観点から机の下の避難しており、実災害に想定した訓練となっていた。
- ・ 各班員が電話等で収集した内容は「情報集・受理票」に確実に記載されていた。
- ・ 災害発生後に必要な情報の収集については、班長の指示に基づき確実に行われていた。
- ・ 班員が現場に赴き、災害状況を画像伝送しており、タンクの規模を把握でき非常に有効であった。

ウ 関係機関との情報共有関係事項

- ・ 各事業所からの情報収集を積極的に行い、実災害に即した訓練を実施することができていた。

エ 大容量泡放射システムの運用に関する事項

- ・ 事業所が広域共同防災組織へ大容量泡放射システムの出動準備を要請し、その後に出動要請をかけ、2段階で準備、出動させる体制は迅速な対応ができ有効であった。
- ・ 大容量泡放射システムについて、事業所から準備及び出動ともコンビナート班へ情報を提供しており、情報伝達がスムーズに行われていた。

- ・ 資機材搬送依頼が来る前に、道路状況の情報を入手し地図上に落とししており、県としてこの大容量泡放射システムの運用に対して積極的に関与していた。また、大容量泡放射システムの出動要請情報を入手後、九州管区警察局へ先導依頼もすばやく実施しており、調整役として県がうまく機能していた。

平成27年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練シナリオ コンビナート対策編／完成版【ver.201511105】

事案番号	予想時刻	発信者	受信者	手段	内容	状況等	コンビナート対策班の活動
1	8:59	コントローラー	県職員	口頭	【地震速報】 緊急地震速報です。強い揺れに警戒して下さい。	県職員自身の安全の確保	シェイクアウト訓練
2	9:00	-	JX従業員	CRによる指示	プラント緊急停止	200galを計測のため、プラント自動停止	
3	9:00	-	-	自動設置	大分県災害対策本部の設置		
4	9:00	総合調整室長	本部員	口頭	今後72時間の基本方針 災害応急対策を中心に、救命救助活動を最優先とする。		
5	9:01	-	JX従業員	自動設置	JX災対本部設置	地震発生に伴い、JX災対本部要員は、災対本部へ参集	
6	9:01	コントローラー	本部員	構内電話	ニュース速報		
7	9:01	-	コンビ班	自動設置	総合調整室内にコンビナート対策班を設置	関係機関にコンビ班の設置を連絡（FAX）。	班員は防災センターに参集。班員に担当事業所を割り当て
8	9:01	JX災対本部	JX従業員	口頭等	従業員の安否確認等開始	各班長により、班員等の安否確認作業を開始	
9	9:01	CCR、OP	JX災対本部	構内電話	CCRにて屋外貯蔵タンクのモニター確認	スロッシングにより複数のタンク浮き屋根部に原油等の溢流を確認	
10	9:03	コントローラー	本部員	構内電話	地震に関する第1報		
11	9:04	JX従業員	JX災対本部	ページング	従業員の安否情報報告	事業所災対本部に各班長からの従業員の安否情報報告。安否確認が完了した事務職員等の避難を開始。	
12	9:05	CCR、OP	JX災対本部	構内電話	溢流した浮き屋根タンク2基（1基：実働、1基：想定のみ）より火災が発生	CCRモニターにてタンク2基の火災発生を覚知の報告。大分市消防局へ通報するとともに、自衛消防隊の出動及び現場指揮本部の設置指示。	
13	9:05	JX災対本部	JX従業員	ページング等	プラント等点検作業開始	班員の安全が確認された班について、作業手順に従い、運転員等による点検作業を開始	
14	9:05	JX災対本部	JX従業員	ページング等	溢流タンクの防除作業指示	溢流浮き屋根タンクについて、固定泡消火設備の作動指示	
15	9:03	コントローラー	本部員	構内電話	津波に関する第1報		
16	9:06	JX災対本部	大分市消防局	一般加入電話	異常現象の通報	タンク火災発生の通報及び出動要請	
17	9:07	大分市消防局	コンビ班	一般加入電話	異常現象発生の伝達	JXにてタンク火災発生。現在、市内の被害多数のため、消防車等の出動は困難。自衛防災組織にて対応するよう指示。	異常現象発生覚知。情報収集班に情報提供
18	9:07	コンビ班	ヘリ運用調整班	無線等	防災ヘリに コンビナート災害情報収集依頼	大分県防災ヘリは県南地域の被害情報収集のため、他県ヘリの運航を検討、指示	防災センター内のヘリ運用調整班に対応要請
19	9:08	コンビ班	防災関係機関	一般加入電話	異常現象発生の伝達	消防庁、産業保安監督部に異常現象発生の連絡	異常現象発生の連絡（想定のみ）

事案番号	予想時刻	発信者	受信者	手段	内容	状況等	コンビナート対策班の活動
20	9:09	JX災対本部	コンビ班	一般電話等	大容量泡放射システムの出動準備要請	タンク火災発生を受け、大容量泡放射システムの出動準備を要請した。	システムの出動準備要請を行ったことを関係県、九州管区警察局に連絡（想定のみ）
21	9:10	コンビ班	分コン会長	一般加入電話	応援事業所待機要請	JXにてタンク火災発生のため、状況確認中。待機要請を行うとともに、各事業所の被害状況等の報告を求める。	班員へNSRフレモマーに連絡し、待機要請。
22	9:11	コンビ班	関係県 石コン防災本部	電話	大容量泡放射システムの出動準備要請を行った旨の連絡	班長指示により、関係県（山口県、広島県、福岡県、佐賀県、長崎県）にシステム出動準備要請を行った旨連絡（想定のみ）。	
23	9:12	コンビ班長	コンビ班員	インターネット等	火災発生を受け、周辺気象状況を確認。	JX付近の気象状況を確認するため、風向、風速等の確認指示。	
24	9:14	コンビ班	大分市 防災危機管理課	電話	避難勧告等の発令状況確認等のため、連絡	大分市に連絡し、避難勧告等の発令状況を確認するとともに、火災発生による事業所外への影響等が考えられるため、連絡を密にするよう申し合わせ。	
25	9:15	JX現場運転員	JX災対本部	ページング	浮き屋根部シール作業に向かった職員より報告	発災タンクについて、固定泡消火設備の作動を試みたが、配管折損により機能せず。	
26	9:17	JX災対本部	広域共同防災組織	一般電話等	大容量泡放射システムの出動要請	固定泡消火設備の損傷を受け、大容量泡放射システムの出動を要請。	
27	9:18	JX災対本部	コンビ班	一般電話等	大容量泡放射システムの出動要請を行った旨の連絡	固定泡消火設備の損傷を受け、大容量泡放射システムの出動を要請した。	
28	9:18	JX現場指揮本部	JX災対本部	無線	自衛消防隊現着。作業開始。	自衛消防隊が発災タンクに到着。二点セットをT-103、大型泡放射砲をT-101に部署し、作業を開始。また、事業所災対本部に状況報告。 ・浮き屋根上部に滞留していると思われる。 ・ドレン配管より原油流出のおそれ。 ・溢流により、タンク周辺に原油が流出。	<p>○各コンビナート事業所から地震による被害状況等報告（大分市消防局又は防災本部に報告となっているが、報告なしの場合は、班員より各事業所に連絡。）</p> <p>○JXの災害への対応</p> <p>①泡消火薬剤関係 →消火活動に伴い、泡消火薬剤が不足する可能性ありのため、県備蓄の搬送準備を要請</p> <p>②公設消防関係 →消防調整本部と情報共有し、JXへの部隊投入等を調整</p> <p>③システム搬送関係</p>
29	9:19	コンビ班	関係県 石コン防災本部	電話	大容量泡放射システムの出動要請を行った旨の連絡	班長指示により、関係県（山口県、広島県、福岡県、佐賀県、長崎県）にシステム出動要請を行った旨連絡（想定のみ）。 また、消防庁及び九州産業保安監督部へ情報提供するとともに、大分県警リエンジン及び九州管区警察局（想定のみ）に先導要請を行う。	
30	9:20	JX協力会社員	JX災対本部	携帯電話	協力会社員より事業所災対本部に連絡	T-106にて作業中の協力会社員2名がタンク内に取り残されており、1名負傷。救助に向かっているとのこと。	
31	9:21	JX災対本部	JX自衛救助隊	口頭等	自衛救助隊の出動指示	事業所災対本部は、自衛救助隊の出動を指示する。	
32	9:24	-	全参加者	CRによる指示	余震発生	想定：大分市震度5弱	
33	9:25	JX現場指揮本部	JX災対本部	無線	自衛防災隊による消火活動開始及び報告。余震の影響は無し。	泡消火薬剤の放射を開始した。これより放水銃による発災タンクの冷却散水準備を開始する。	
34		昭和電工（株） 大分コンビナート	コンビ班	電話	大容量泡放射システムの出動要請に伴う、通行可能道路の問合せ。（事業所の規程のため、あるかどうかは不明。）	システムの搬送可能道路の選定のため、情報提供を求める電話あり。時点情報を提供する。	

事案番号	予想時刻	発信者	受信者	手段	内容	状況等	コンビナート対策班の活動
35	9:26	JX協力会社員	JX災対本部	携帯電話	協会会社員より事業所災対本部に連絡	内容：救助に来た従業員が先程の余震で橋脚から落下。安全帯をつけていたので宙吊りとなっている。頭を打ったのか、意識はない模様。また、先程から硫化水素のおいがする。	<p>コンビナート対策班の活動</p> <p>○システム搬送関係 →システム搬送可能道路の選定、先導依頼</p> <p>○消防庁への報告 →大分地区の被災状況を適宜報告</p> <p>○コンビナート被害の集計 →各事業所からの報告に基づき、被害状況を集計</p>
36	9:27	JX災対本部	大分市消防局	一般加入電話	救助事案発生時の通報	タンク橋脚からの落下事案発生時の通報。JX自衛救助隊による救助困難のため、出動要請。	
37	9:28	大分市消防局	消防調整本部	一般加入電話	JXにて救助事案発生時の連絡	タンク橋脚からの落下事案発生時の連絡。消防調整本部へ対応要請。	
38	9:29	消防調整本部	コンビ班	口頭	JXにて救助事案発生時の連絡	タンク橋脚からの落下事案発生時の連絡。消防調整本部へ対応検討。	
39	9:30～	各特定事業所	コンビ班	電話	各特定事業所における地震による被害状況連絡	地震による被害情報を事業所がとりまとめ、報告が始まる。新日鐵、昭和電工、住友化学、九州電力、大分LNG	
40	～9:45	コンビ班	各特定事業所	電話	各特定事業所における地震による被害状況確認	被害状況の報告のない事業所に対し、状況確認のための連絡を行う。	
41	9:30頃	JX災対本部	コンビ班	電話	消火活動に伴い、泡消火薬剤不足のおそれのため、県の備蓄を提供願う旨の連絡	提供は問題ないが、津波警報発令中のため検討する旨回答。	
42	9:35頃	コンビ班	JX災対本部	電話	県備蓄泡消火薬剤搬送の可否の連絡。	津波警報発令中のため、解除後でなければ搬送できない旨連絡。また、警報解除後に直ちに搬送できる体制をとる（運搬費用は事業者持ち、かつ現品返納が原則である旨伝える。）。搬送準備等が完了したら連絡するので、受入準備をお願いします。	
43	9:37	コンビ班	日通大分事業所	電話	県備蓄泡消火薬剤搬送要請のため、待機要請。	JXにて火災のため、県備蓄の泡消火薬剤を搬送するが、津波警報発令中のため、解除後の搬送となる。解除後直ちに搬送できるよう、人員及び車両等の確保をお願いします。	
44	9:50	JX災対本部	JX従業員	構内放送等	津波到達予想時刻35分前の放送	従業員は作業を切り上げ、避難を開始するよう指示。JX現場指揮本部員は、放水銃による放水のみ継続とし、車両による避難を指示。	
45	9:55	JX災対本部	JX従業員	構内放送等	津波到達予想時刻30分前の放送	直ちに避難を開始するよう指示。	
46	10:10	JX災対本部	大分市消防局	一般電話等	災害状況報告	火勢は弱くなったものの、依然火災継続中。冷却散水は継続したまま、大化高等の車両は一次撤収している。また、タンク内に取り残された協会会社員3名のうち、負傷者2名の安否は不明。1名は最後に連絡があったからその後連絡なし。直近の避難所へ避難していないため、依然タンク内にいると思われる。その他の従業員等については、現時点で全て避難済み。	
47	10:15	消防調整本部(コンビ班)	コンビ班(消防調整本部)	口頭	JXの状況確認	JXの状況確認を実施。消防調整本部から情報提供がない場合は、コンビ班が消防調整本部に取りに行く。	
48	10:20	-	全参加者	CRによる指示	大分市へ津波第1波到達。	津波1m	

事案番号	予想時刻	発信者	受信者	手段	内容	状況等	コンビナート対策班の活動
49	10:25	-	全参加者	CRによる指示	大分市へ津波最大波到達。	津波1m。JX構内への越波なし。	
50	10:35	総合調整室長	全員	口頭	本部会議実施	1 主な被害状況	
51	本部会議終了後	気象庁 (CR)	情報収集班	紙	豊後水道及び瀬戸内海沿岸への津波警報解除。津波注意報へ切り替え		大分地区の被害状況を勘案し、JXへ連絡員の派遣を検討
52	10:37	コンビ班	日通大分事業所	電話	コンビナート火災対応のため、県防災資機材センターへ搬送のための人員等の派遣を要請。	県担当者1名を防災資機材センターへ江藤を派遣。(想定のみ)	
53	10:38	コンビ班長	コンビ班員	口頭等	JX日鉱日石エネルギー (株) 大分製油所の状況確認のため、県職員1名を連絡員として派遣。	県担当者1名をJX日鉱日石エネルギー (株) 大分製油所へ森山を派遣	
54	10:39	コンビ班	JX災対本部	電話	泡消火薬剤の搬送を依頼した旨及び状況確認のため、県職員1名派遣の連絡。	泡消火薬剤の搬送指示を出した。また、災害状況確認のため、県職員1名を派遣している。受入等の対応をお願いする。	
55	10:40	JX災対本部	JX従業員	口頭等	津波による被害状況確認のため、バース等の沿岸施設の点検指示	JX従業員は津波による被害情報の確認に向かう。	
56	10:41	JX災対本部	JX自衛消防隊	口頭等	津波警報解除を受け、再出動指示	自衛消防隊は、消火活動再開のため再出動。	
57	10:42	JX災対本部	大分市消防局	一般加入電話	津波警報解除を受け、再出動の報告及び再度公設消防出動要請。	公設消防については消防調整本部が派遣部隊を調整中。	○各コンビナート事業所から津波による被害状況等報告(大分市消防局又は防災本部に報告となっているが、報告なしの場合は、班
58		大分市消防局	JX災対本部	一般加入電話	派遣決定の連絡	大分市消防局東消防隊と別府市消防本部隊を消火のために派遣、救助のために熊本県隊を派遣するので、部隊到着後、状況説明及び発災現場までの誘導を要請。	
59	10:45	JX従業員	JX災対本部	無線	第9バース配管が損傷し、海面に油膜を確認。	津波の引き波により流された船舶が、第9バースの配管に衝突しており、周辺海面に油膜を確認した旨の報告。漏えいは現在も継続中。	
60	10:46	JX災対本部	大分海上保安部	一般加入電話	海上漏えい発生の通報。	第9バース配管損傷による海上漏えい発生の通報。	
61	10:47	JX災対本部	海上災害防止センター	一般加入電話	油防除のための出動要請	第9バース配管損傷による海上漏えい発生の通報。	
62	10:47	大分海上保安部	コンビ班	一般加入電話	海上漏えい発生の通報。	第9バース配管損傷による海上漏えい発生の通報。	
63	10:48	コンビ班	防災関係機関	一般加入電話	異常現象発生の伝達	大分市消防局、消防庁、産業保安監督部に異常現象発生の連絡	
64	10:50~	各特定事業所	コンビ班	電話	各特定事業所における津波による被害状況連絡	津波による被害情報を事業所がとりまとめ、報告が始まる。新日鐵、昭和電工、住友化学、九州電力、大分LNG	
65	~11:20	コンビ班	各特定事業所	電話	各特定事業所における津波による被害状況確認	被害状況報告がない事業所に対し、状況確認のための連絡を行う。	
66	11:05	コンビ班員	コンビ班	電話	防災資機材センターに派遣したコンビ班員より連絡。	防災資機材センターに到着。泡消火薬剤の積み込みを開始した。作業終了後、JXに搬送する。到着予定時刻は11:45頃見込み。	

事案番号	予想時刻	発信者	受信者	手段	内容	状況等	コンビナート対策班の活動
67	11:15頃	JX災対本部	コンビ班	電話	応援事業所の出動要請伺い	火災発生により、応援事業所の出動要請を行いたい旨連絡。 本部長の指示として応援出動を要請するよう回答。	
68	11:20頃	コンビ班	広域共同防災組織	電話	システムの搬送状況を問合せ	津波警報解除を受け、システムの搬送準備中。車両25台、搬送開始は12:00予定。到着は15:00頃を見込み	

以降は、災害対応の状況報告に基づいて、ブラインド訓練

		各訓練の内容	負傷者救出訓練	緊急消防援助隊による、宙吊りとなった負傷者の救出訓練。硫化水素リッチのため、空気呼吸器を装着しての救助活動。	
			タンク火災消火訓練	自衛消防隊、公設消防（大分市、別府市）による消火訓練。海上から海上保安部巡視艇による冷却放水訓練。	
			流出油回収訓練	オイルフェンス展張及びフェンス内流出油の回収訓練	

緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練 県防災センター 《11月7日(土)》電話番号一覧

